

コラム人生課長の独り言～一歩進めるためのヒント～

「そろえる」ことの意味

「スタンダード」で授業の型をそろえたり、中学校区で規律を統一したりすることに、どこか「児童生徒を縛るもの」というイメージを持っていませんか？ある中学校区では、児童生徒の学び方の共通ルール（授業5の要素や話し合いの型）を小学校から中学校まで一貫してそろえ続けました。これにより、児童生徒は新しいクラスや学校に進学しても『何をどう学べばよいか』に迷うことなく、初日から安心して学びに没頭することができました。担任によってルールが異なるダブルスタンダードを排除することは、すべての児童生徒の教育を受ける権利と心の安全網（セーフティネット）を保障する強固な基盤なのです。「授業5（ファイブ）」を授業の基本形とするのも同じです。授業に含まれるの要素が共通の「きまり」として定着しているからこそ、児童生徒は安心して自分の考えを出し（自己決定）、他者とながら（共感的関係）ことができるのです。

もし担任や学年によって学習規律がバラバラ（ダブルスタンダード）だったら、児童生徒はどう感じるでしょうか。ある教室では許されることが、別の教室では叱られる。そんな不安定な環境では、児童生徒は常に教師の顔色に「正解」を探すようになり、安心して学びに没頭することはできません。

「学習規律」を校内、そして中学校区でそろえることは、集団に所属する全ての児童生徒の「教育を受ける権利」と「安全・安心」を保障する基盤です。共通の要素である「授業5（ファイブ）」が確立されていれば、どの子にも「出番」と「居場所」が生まれます。「一歩先へ！」進むための授業改善は、まずこの「そろえる」という土台を固めることから始まります。先生方の「ベクトル」をそろえることが、児童生徒の心を安定させる一番の近道なのです。ルールをそろえ、型を重ねるのは、児童生徒を縛るためではなく、誰もが安心して本音を言える「心の安全網（セーフティネット）」を張るため。間違いを宝物に変えられる先生の笑顔が、クラスの共感的な人間関係を育む一番の栄養剤なのです。（高橋）



Vol.55

発行日令和8年10月

岡山県教育庁人権教育・生徒指導課

生徒指導

Leaflet @ OKAYAMA

リーフ

誰一人取り残されない岡山県の教育に向けて

生徒指導と学習指導の一体化①

～授業5（ファイブ）の中の生徒指導～

「岡山型学習指導のスタンダード」で示されている授業5（ファイブ）は、単なる教える技術の型ではありません。それは、児童生徒に自己存在感を抱かせ、自己決定を促す、発達支持的生徒指導そのものです。授業5（ファイブ）に内在化した生徒指導について考えてみましょう。

岡山県教育庁
人権教育・生徒指導課

〒700-8570
岡山県岡山市北区内山下2-4-6
Tel:086-226-7589 Fax:086-224-2134

Q.「授業5(ファイブ)」と生徒指導の関係について教えてください。

A.岡山県教育委員会が作成した『岡山型学習指導のスタンダード』が提唱する「授業5（ファイブ）」は、1単位時間の授業を構成する上での基礎・基本となる5つの要素のことです。児童生徒に「確かな学力」を身に付けさせるため、日々の授業で教員が大切にすべきポイントとして以下のように整理されています。

- ①めあて（目標）を示す：児童生徒が本時で「何をどのように学ぶのか」を理解し、学習問題を自分事として捉えられるようにします。
- ②自分で考え、表現する時間を確保する：一人一人が自分の考えを持ち、それを交流させることで、考えを広げたり深めたりします。
- ③目標の達成度を確認する：一人一人の習得状況を把握し、個別の指導を行うとともに、課題解決の過程を振り返らせます。
- ④学習内容をまとめる：本時で何を学んだのかが分かるように、学習内容を整理し、確認させます。
- ⑤授業の振り返りをする：分かったことやできたこと、考えたことなどを自分の言葉で書かせ、学習の成果を自覚させます。

生徒指導の視点での価値付け例

生徒指導は授業に内在化していることを度々お話させていただいています。上に示した「授業5（ファイブ）」が教科指導の視点からの整理だとすれば、生徒指導の実践上の4つの視点（自己存在感、自己決定、共感的人間関係、安全・安心な風土）で、5つの要素を読み解き、生徒指導と学習指導の一体化を目指してみたいと思います。

①めあて（目標）を示す ⇔ 自己決定の場の提供

学習問題を「自分事」として捉えさせることは、学習への主体的な参加を決断する「自己決定」の場となります。

＜Point＞教師が一方向的に与えるのではなく、児童生徒の言葉や既習事項とのズレを活かし、自ら「やってみたい」と思えるような「めあて」を工夫します。

授業づくりの
基礎・基本



『学習指導のスタンダード』の
ダウンロードはコチラ

生徒指導の視点で
価値付ける

②自分で考え、表現する時間を確保する ⇔ 自己決定／共感的な人間関係

自分の考えを持つことは「自己決定」そのものであり、それをペアやグループで交流し、多様な考えを認め合うことは「共感的な人間関係」の育成に直結します。

＜Point＞端末を活用した他者参照や意図的な指名で、全員が自分の考えを持てるよう手助けします。考えの共通点や相違点を整理させ、他者への理解を深めます。

③目標の達成度を確認する ⇔ 自己存在感／安全・安心な風土

一人一人の習得状況を把握し、つまずきに寄り添う指導は、「先生は私を大切にしてくれている」という「自己存在感」を育みます。

＜Point＞机間指導により発表されていない優れた考えを取り上げ、学級全体に紹介することで、主体的に取り組める「安全・安心な風土」を醸成します。

④学習内容をまとめる ⇔ 自己存在感

児童生徒の思考プロセスを構造化された板書で可視化し、児童生徒の発言を活かしてまとめることで、一人ひとりの学びへの貢献を認め、「自己存在感」を育みます。

＜Point＞児童生徒の言葉を無理やり解釈せず、なぜそう思った（考えた）のか整理、確認させることで、納得感のある学びを実現します。

⑤授業の振り返りをする ⇔ 自己存在感（自己肯定感）

「分かった、できた」を自覚させることは、自立を支える「自己肯定感」を高めます。

＜Point＞単なる感想ではなく、「具体的に身に付いた内容」や「他者の意見による自己の変容」を自分の言葉で書かせます。

【注意！】上記の内容は一例に過ぎません。それぞれの学習の要素に他にどのような生徒指導が内在するか考えることが重要です。

POINT

授業を生徒指導と学習指導の二つの視点で構想する。



『提要』のダウンロード
はコチラ

まずは
授業に内在化した
生徒指導を
意識する